

# Aichi

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00053512">https://doi.org/10.24517/00053512</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 23. 愛知県 追補

芹沢俊介 (〒448-8542 刈谷市井ヶ谷町広沢1 愛知教育大学自然科学系生物領域/  
〒490-1131 海部郡大治町長牧浦畑198-1 愛知みどりの会)

### (A) 植物誌

一般的なスタイルの県植物誌については、2002年以降進展がない。しかし、植物誌作成の内容面でのネックになっていた帰化植物については、その後の調査でかなり情報が蓄積された。そこで帰化植物と国内移入種については、2012年3月発行の『愛知県の移入動植物—ブルーデータブックあいち2012』(愛知県移入種データブック検討会編, 225頁, 愛知県環境部自然環境課)に、主要77種について1種1頁で標本を引用しながら県内の状況を記述すると共に、全種リストと県内を17区画に分けての分布表を掲載した。またこれに先立って、絶滅危惧種(全国的には絶滅危惧とされているが、愛知県ではその要件を満たさない25種を含む)612種については、後述の『レッドデータブックあいち2009植物編』で、県内を58区画に分けて、やはり1種1頁で標本を引用しながら状況を記述した。絶滅危惧種以外の在来植物については、主要200種程度について同様の形式で県内の状況を記述すると共に全種リストと県内分布表を作成し、「グリーンデータブックあいち」としてまとめたいと考えている。レッドデータブック、ブルーデータブック、グリーンデータブックの3つが揃えば、県植物誌に求められる情報はほぼ全て提供できるようになるはずである。

市町村等の植物誌としては、その後小林元男『渥美半島の植物』(東三林業振興会, 2002), 小林元男『宝飯の植物』(東三河農林水産事務所, 2004), 小林元男『北設楽の植物』(愛知県林業試験研究推進協議会, 2006) 小林元男『佐久島・三河湾島々の植物』(佐久島会, 2008), 堀田喜久『新編安城市史11別冊 安城市植物目録』(安城市, 2005, 概要は本編に掲載)などが刊行された。また小林元男氏は、『愛知県史別編 自然』(愛知県, 2010)の中で、愛知県の植物相の概要をまとめられた。

### (B) 研究機関等

2002年以降、藤井伸二氏が人間環境大学に、常木静河氏が愛知教育大学に赴任されたが、豊橋市自然史博物館では学芸員が転出し、植物担当者不在の状態になってしまった。なお愛知教育大学は、2013年3月末で私が退職し、それ以降の植物自然史研究は渡邊幹男氏、常木氏、それに育種学が専門だがサクラソウ等の多様性にも興味を持っておられる加藤淳太郎氏の3人体制になる。

NGO組織の愛知県植物誌調査会は堀田氏が多忙になって維持できなくなったので、今年度末で愛知みどりの会に吸収の予定である。

### (C) 標本庫

2005年国際博覧会、2010年COP10と2つの大きい機会があったのに、県立または名古屋市立の自然史博物館がないという状況はついに変わらなかった。自然史研究最後進県の汚名はなかなか返上できない。愛知教育大学の標本は、私の退職に伴いそのままでは管理が困難になるので、やむを得ず当分の間愛知みどりの会に移管(略号はAICHのまま)する。私の存命中に県内に受け入れ機関ができなければ、主要標本は国立科学博物館に引き取っていただく予定である。移管に伴い標本庫の面積等は多少改善される見込みで、名古屋駅からも近くなる(西方約7km)から、外来者には今までより利用していただきやすくなると思う。新城市立鳳来寺自然科学博物館と豊橋市立自然史博物館に収蔵されている標本については、特に状況の変化はない。千葉県立中央博物館に収蔵されている故井波一雄氏の標本は、その後整理が進み、故稲垣貫一氏の標本と共に利用できるようになった。ただし採集者本人の整理ではないので採集地名等が多少混乱している可能性があり、利用の際には注意が必要である。

### (D) レッドデータブック

県のレッドデータブックは1996年にNGO版、2001年に県発行の初版が刊行され、2009年に『レッドデータブックあいち2009植物編』(758頁, 愛知県環境部自然環境課)として改訂された。同時に写真中心の概要版(50頁, 同課)も刊行された。次のブック改訂は2020年頃の予定(リストは2014年改訂予定)なので、その間に前述のグリーンデータブックを出すよう働きかけている。名古屋市の『レッドデータブックなごや2004植物編』(324頁, 名古屋市環境局)は県とほぼ同じ形式で2004年に刊行され、2010年にその補遺版が刊行された。こちらは2014年の改訂に向けて追加調査が始まっている。

### (E) 植物群落

植物群落関係の研究については、現況を十分把握していない。環境省の1/25,000植生図は全域の調査が終了したが、諸般の事情により刊行が遅れている。